

## 令和2(2020)年宮城県産業連関表 用語説明

あ	
粗付加価値	各産業部門の生産活動によって、新たに生み出された価値。
移出	宮城県外(国外を除く)の需要を賄うために、宮城県内で生産された財やサービスのこと。なお、宮城県外(国外を除く)居住者が宮城県内で消費した分も含む。
移入	宮城県内の需要を宮城県内生産物で賄いきれない場合に、宮城県外(国外を除く)から購入した財やサービスのこと。なお、宮城県内居住者が宮城県外(国外を除く)で消費した分も含む。
影響力係数	当該産業部門の列和を各産業部門の列和平均値で除したもの。これは、各産業に与える影響の大きさを表す。係数が1より大きいとその産業は平均より各産業へ与える影響が大きいと見ることができる。
か	
仮設部門	独立したひとつの産業部門とは考えられないが、産業連関表を作成する上での便宜や利用目的を考慮して設ける部門。
感応度係数	当該産業部門の行和を各産業部門の行和平均値で除したもの。これは、各産業から受ける影響の大きさを表す。係数が1より大きいとその産業は平均より各産業から受ける影響が大きいと見ることができる。
逆行列係数	<p>ある産業部門に1単位(100万円)の最終需要が生じた場合の直接・間接の生産波及の大きさを示す係数。本県の統計表では<math>[I-(I-M)A]^{-1}</math>型と<math>(I-A)^{-1}</math>型を公表している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>[I-(I-M)A]^{-1}</math>型逆行列係数 県外との取引を考慮した開放型経済モデルの逆行列係数。 なお、本県が公表する経済波及効果分析ツールはこのモデルを前提としている。</li> <li>・<math>(I-A)^{-1}</math>型逆行列係数 県外との取引を考慮しない閉鎖型経済モデルの逆行列係数。</li> </ul>
競争移輸入型	<p>県内生産品と移輸入品とを区別しないで一括して各需要部門に計上するモデル。</p> <p>なお、県内生産品と移輸入品とを区別するモデルを「非競争移輸入型」という。</p>
経済(生産)波及効果	ある産業に新たな需要が生じたとき、その需要を満たすため、原材料の取引等を通じて次々と他の産業に影響を及ぼす過程。
県外流出率	経済(生産)波及効果が県外にどのくらい流出するかを示す割合。 ※“県外流出率=1-県内歩留率”

県内自給率	県内需要における県内で生産された財・サービスの割合。 ※“県内自給率=1-移輸入率”
県内歩留率	経済(生産)波及効果が県内にどのくらい留まるかを示す割合。 ※“県内歩留率=[I-(I-M)A] <sup>-1</sup> 型逆行列係数/(I-A) <sup>-1</sup> 型逆行列係数”
さ	
最終需要	各産業部門で生産された財・サービスのうち、取引の最終段階(家計消費、政府消費、投資、移輸出等)において需要(消費、投資)があったもの。
生産者価格評価表	財・サービスの取引を生産者価格(生産者の「出荷価格」)で記録した表。 したがって、購入者が入手するまでに要した流通経費(商業マージン及び貨物運賃)は、購入側の列部門と商業部門及び運輸部門(いずれも行部門)との交点に一括計上している。 ※“購入者価格=生産者価格+流通経費(商業マージン+貨物運賃)”
総供給	県内に供給された全ての財・サービスのこと。なお、総需要と等しくなる。 ※“総供給=県内生産額+移輸入=総需要”
総需要	県内で需要があった全ての財・サービスに移輸出を加えたもの。なお、総供給と等しくなる。 ※“総需要=県内需要(中間需要+県内最終需要)+移輸出=総供給”
た	
地域内産業連関表	特定の1地域を対象とした産業連関表。 なお、同時に複数の地域を対象としたものを地域間産業連関表という。
中間需要	各産業部門で生産された財・サービスのうち、各産業部門の生産活動の過程で原材料等として需要(販売)があったもの。
中間投入	各産業部門の生産活動の過程で原材料等に要した費用。
投入係数	各産業部門がそれぞれの財・サービスを生産するために必要とされる原材料・粗付加価値等の投入額を当該列部門の県内生産額で除すことにより得られる係数。すなわち、ある産業1単位(100万円)の生産を行うために必要な原材料・粗付加価値等の割合を表す。